

終身年金パズルによる年金・一時金の選択に関する考察 — 公私年金の役割分担を踏まえて —

りそな銀行 谷内 陽一

1. はじめに

少子・高齢化の進展に伴い公的年金の給付水準の低下が余儀なくされる中、公的年金を補完し、トータルで老後所得保障機能を維持・補強する役割を担う企業年金への期待が高まっている。しかし、わが国の企業年金は、年金だけでなく一時金による受取（選択一時金¹）を選択できるのが大きな特色であり、また、年金受給者の大半が年金ではなく一時金による受取を選択しているため、支給実態が制度趣旨に沿っていないとの指摘を受けている。

本稿では、わが国の企業年金における年金・一時金の給付実態を概観するとともに、企業年金において年金受取が選好されない理由を、終身年金パズル（annuity puzzle）における代表的な仮説を用いて分析する。さらに、老後所得保障における公的年金と私的年金（企業年金・個人年金）の役割分担のあり方についても論じる。

2. 企業年金における年金・一時金の支給実態

企業年金における選択一時金の導入状況は、確定給付企業年金では基金型で 85.4%、規約型で 88.6%となっている。終身給付を原則としている厚生年金基金でも 48.0%が導入しており、わが国の企業年金制度において選択一時金が広く導入されている様子がうかがえる。

わが国の企業年金における年金受給資格者の年金・一時金の選択状況をみると、68.7%が全額一時金で受給しており、一時金と年金との併用を含めると 80.5%が一時金を選択している計算になる。時系列でも、一時金を選択する者の割合はここ 10 年で一貫して増加傾向にある。確定拠出年金に至っては、94%もの受給者が一時金を選択している。

3. なぜ年金受給が選好されないのか

（1）終身年金パズルの仮説による要因

長寿リスクへの対応という観点からは、有期（確定）年金よりも終身年金の方が優れていることは、先行研究で既に多く指摘されている。にもかかわらず、現実の私的年金市場にお

¹ 年金受給資格を満たした者に対し、受給者本人の選択により、年金に代えて支給される一時金をいう。以下、本稿において「一時金」と表記するときは、特段の記載がない限り選択一時金のことを指す。

いては終身年金の普及は進んでいない。これは、わが国のみならず世界的にも共通の傾向であり、この理論と現実のギャップは「終身年金パズル (annuity puzzle)」と称されている。

本稿では、終身年金パズルにおける代表的な仮説である「逆選択」「遺産動機」「早期死亡による損失回避」「予備的貯蓄」「家庭内における長寿リスクのヘッジ」「公的年金の存在」等に基づき、企業年金において年金受取が選好されない（または一時金受取が選好される）理由について分析する。

（2）その他の要因

企業年金において年金受取が選好されない代表的な要因として、先行研究では「年金受取よりも一時金受取の方が税制上有利であること」を筆頭に、「住宅ローンの返済」「退職一時金から先行して発達した歴史的経緯」等の要因が挙げられている。

上記に加えて、本稿では、「給付利率（年金換算利率）の低下」「有期（確定）年金の過小評価」「保証期間に係る規制の存在」「現況（生存）確認に係るコスト負担」等の要因も年金選択を阻害している可能性を指摘する。

4. むすびにかえて～年金給付における公私年金の役割分担のあり方

公的年金と私的年金の役割分担というと、従来は、公的年金を土台に私的年金を「上乗せ」して受給する図式が長らく支持されており、この場合、私的年金も終身給付で備えるのが理想とされてきた。しかし、私的年金は終身給付の実施割合が低い上、そもそも年金受取よりも一時金受取が選択されている実態があり、従来型（上乗せ型）の公私年金の役割分担は綻びが生じつつある。

そこで、一時金受取が主体となっている私的年金の給付実態を踏まえつつ、老後所得の水準を一定程度確保するための方策として、公的年金の受給開始をできるだけ先送りする一方、私的年金は就労引退から公的年金受給開始までの「つなぎ」として活用することを提唱する。つなぎの期間（5～10年）だけを賄うのであれば、有期（確定）年金や一時金でも対応が容易となる上に、私的年金による老後準備の目標が「つなぎの期間（5～10年）の分」と明確になることから、自助努力による老後資産形成に対する心理的障壁を引き下げる効果も期待される。

一方、平均余命の伸長に伴う長寿リスクへの対応は、終身給付を原則とする公的年金の「繰下げ受給」により対応することを提唱する。公的年金の受給額は70歳まで繰下げることにより最大で42%増加するほか、公的年金は強制加入であるため逆選択が生じにくく、現況確認も住基ネット等で可能なため、終身給付の提供主体としては最も効率的であると考えられる。